



## 平成29年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座 「教員のための英語リフレッシュ講座」



日程	平成29年8月7日(月)～10日(木)
会場	大阪大学大学院言語文化研究科 (豊中キャンパス)
定員	70名(先着順・定員に達した時点で大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻HPに提示します)
講習料	9,500円
参加申込	受付期間 6月30日(金)～7月14日(金)
主催	大阪大学大学院言語文化研究科

詳細は大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻HP (<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/lc/>) にて公開しています。(裏面も御覧ください)

# 平成29年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座 「教員のための英語リフレッシュ講座」

平成14年度発足の本講座は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学あるいは民間教育機関等の校種を問わず、英語教育の実践のために役立つ知識を提供することを主眼としています。グローバル化への対応が迫られる今日において、本講座の果たす役割はますます大きくなるものと思われまます。

本講座の講師は、英語教育学・英語学・英文学・応用言語学・社会言語学・認知言語学・コーパス言語学等を専門とする大学教員が中心で、それぞれの分野の知見に基づき、英語教育への応用について考察します。また、大阪大学の教員だけでなく、他大学の著名な先生方にも講義をお願いしております。英語教育に関する講義だけでなく、英語力自体をあらためてブラッシュアップしていただくための少人数クラスも設けています。さらに本年度は、参加者の方々の自由な意見交換を促進するディスカッションのセッションも企画しております。

本年度の講座も、これからの英語教育についてご一緒に学ぶ有意義な機会となることを願っています。

## 講義および講師

(所属大学名のない講師は、大阪大学所属)

### 8月7日 (月)

10:00~10:20	オリエンテーション	教員のための英語リフレッシュ講座企画WG
10:30~12:00	英語教育の歴史から英語教育政策を問い直す	(和歌山大学) 江利川春雄教授
13:00~14:30	事態解釈から考える英文法・異文化理解の基礎	田村幸誠准教授
14:40~16:10	日本人に相應しい英語教育—変革を迎える小学校英語と中高の英語	成田—大阪大学名誉教授
16:20~17:20	英語らしい発音の科学—ダイナミックメカニズムと発音・聴解の秘儀	成田—大阪大学名誉教授

### 8月8日 (火)

* 10:30~12:00	小学校英語に学ぶリタラシー指導	(ノートルダム学院小学校英語科スーパーバイザー) 田縁真弓先生
* 10:30~12:00	国際交流のメディア—能からアニメまで	ジェリー・ヨコタ教授
13:00~14:30	コーパスに基づく語彙指導—何をどこまでどう教えるか	(神戸大学) 石川慎一郎教授
* 14:50~17:10	英語コミュニケーション演習① (基礎)	デーヴィド・マレー講師
* 14:50~17:10	英語コミュニケーション演習②	アンドリュー・村上スミス准教授
* 14:50~17:10	英語コミュニケーション演習③	グエン・ヘルヴァソン特任准教授
* 14:50~17:10	英語コミュニケーション演習④	タマラ・コーヘン特任准教授

### 8月9日 (水)

10:30~12:00	科学的な裏付けのある診断的リスニング指導法	(立命館大学) 上田真理砂教授
* 13:00~14:30	ICTを活用した外国語学習—実践事例の紹介とワークショップ	岩居弘樹教授
* 13:00~14:30	効果的な英語プレゼンテーション指導—実証研究に基づく評価基準	(イー・グローブ) 島村東世子先生
14:40~16:10	「国際英語」の学び—理論と授業実践	日野信行教授

### 8月10日 (木)

* 10:30~12:00	第二言語習得時における動機づけと情意—内容と言語を統合して	西田理恵子准教授
* 10:30~12:00	ネット上のフリー教材を活用する—発音からTEDトーク、発信型活動まで	小口一郎教授
* 13:00~14:30	生徒の英語能力を適切に評価するために知っておきたいこと	今尾康裕准教授
* 13:00~14:30	会話分析による英語教育へのアプローチ	岡田悠佑准教授
* 14:50~16:40	ディスカッション① (小・中・高の英語教育接続)	進行: 森祐司教授 (姫路獨協大学) 山岡華菜子講師
* 14:50~16:40	ディスカッション② (教室のなかの多文化共生)	進行: ジェリー・ヨコタ教授 三宅真紀准教授
* 14:50~16:40	ディスカッション③ (アクティブ・ラーニングの可能性)	進行: 小葉哲哉講師
16:50~17:00	講座修了証授与式	ホドシチェク・ボル講師 大阪大学大学院言語文化研究科長 木村茂雄教授

■ 講義概要は大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻HP (<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/lc/>)にて公開しています。

■ 同時時間帯に開講の\*印付きの講義、英語コミュニケーション演習及びディスカッションは選択です。

申し込み時にそれぞれの時間帯で選択する講義をお知らせ下さい。

■ 全講義 (時間帯) の60%以上に出席された受講生の方には講座修了証を授与いたします。

## 参加申込方法 (受付期間 6月30日 (金) ~ 7月14日 (金))

① E-mailにて、大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻HP (<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/lc/>)記載の案内に従ってお申し込みください。

② お申込み受付後、E-mailにて講習料の振込先等を通知いたします。通知に記載された方法により、指定振込銀行口座へ受講者氏名でお振り込み (手数料はご本人負担) 願います。お申し込み後、1週間以内に通知が届かないようでしたら、お問い合わせください。

お振り込みいただきました講習料は、欠席された場合でも返金できませんので、ご了承下さい。

問い合わせ 大阪大学大学院言語文化研究科・外国語学部豊中事務室総務係

(E-mail: [genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp](mailto:genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp) TEL: 06-6850-5855 FAX: 06-6850-5865)

# 講師プロフィール & 講義内容

(所属大学名のない講師は、大阪大学所属)

同時時間帯に開講の\*印付きの講義、英語コミュニケーション演習及びディスカッションは選択です。

8月7日 (月)

10:30~12:00

## 英語教育の歴史から英語教育政策を問い直す

江利川春雄

和歌山大学教育学部教授 専門：英語教育学・英語教育史

**プロフィール**：英語教育史・政策論・協同学習論を三位一体で追求している。日本英語教育史学会会長。著書『日本人は英語をどう学んできたか』（研究社）など。

**講義内容**：思いつきの域を出ない英語教育政策を批判・克服するために、英語教育史を振り返る。特に焦眉の「小学校英語教育」「英語による英語授業」「アクティブ・ラーニング」等を再考する。先人たちの奮闘の歴史から学ぶことで未来が拓ける。そんな問題提起をしたい。

13:00~14:30

## 事態解釈から考える英文法・異文化理解の基礎

田村幸誠

言語認知科学講座准教授 専門：言語学・英語学

**プロフィール**：博士(文学)。英語とユピック・エスキモー語の対照研究を12年ほど行っている。論文: Epistemicity and Deixis: Perspectives from Central Alaskan Yup'ik, BLS 38. 翻訳: 『そして僕はOEDを読んだ』三省堂。

**講義内容**：「英語話者による事態の捉え方とその通言語的な特徴」をテーマに、さまざまな言語と英語を比較しながら、事態の捉え方とそのコード化の関係を考察します。英作文や異文化理解教育のヒントになることを提供できればと考えています。

14:40~16:10

## 日本人に相応しい英語教育—変革を迎える小学校英語と中高の英語

成田一

大阪大学名誉教授 専門：英日対照構造論・機械翻訳・言語教育/習得論

**プロフィール**：著書『日本人に相応しい英語教育』（松柏社）他、編著『英語リフレッシュ講座』（大阪大学出版会）他、英語教育総合学会会長。

**講義内容**：言語類型と習得理論の観点から日本人に相応しい英語教育を検討し、学習意欲を高め運用能力の育てる「総合的な訳読」や（脳内音読を伴う）多読による運用自動化、「英語で授業」や大阪府の「小学校英語のDREAM」プロジェクトの波及効果も追究する。

16:20~17:20

## 英語らしい発音の科学—ダイナミックメカニズムと発音・聴解の秘儀

成田一

大阪大学名誉教授 専門：英日対照構造論・機械翻訳・言語教育/習得論

**プロフィール**：著書『日本人に相応しい英語教育』（松柏社）他、編著『英語リフレッシュ講座』（大阪大学出版会）他、英語教育総合学会会長。

**講義内容**：発声の生理のMRI画像、音読時の脳活動画像なども示しつつ、「ダイナミックな発音変容の仕組み」の理解を踏まえて、発音・聴解の解説を行うとともに、「発音教育においては何を教えなければならないか」を理論的かつ実践的に論じる。

8月8日 (火)

\* 10:30~12:00

### 小学校英語に学ぶリタラシー指導

田縁真弓

ノートルダム学院小学校英語科スーパーバイザー 専門：小学校英語

プロフィール：京都教育大学大学院連合教職実践研究科（非常勤）。公立小学校英語教育アドバイザー。著書に『教室英語ハンドブック』（共著、研究社）、『スピーキング指導ハンドブック』（共著、大修館書店）など。

講義内容：2020年に教科化される小学校高学年の英語科において「文字」はどのように扱われるか。音韻認識を高める活動や、絵本指導など、実際の活動を体験するワークショップを通してこれからの中高におけるリタラシー指導を、参加者とともに考えてみたい。

\* 10:30~12:00

### 国際交流のメディア—能からアニメまで

ジェリー・ヨコタ

現代超域文化論講座教授 専門：日英レトリック

プロフィール：文学博士。能謡曲の原作と英訳の比較修辞学研究。著書に The Formation of the Canon of Nō (謡曲体系の形成、大阪大学出版会) など。

講義内容：グローバル時代に求められる英語コミュニケーション能力の育成のために、ポップ・カルチャーだけではなく、伝統文化を紹介する意義があると思われます。謡曲で使われる比喩や概念メタファーに焦点を当てながら、文化の普遍性とダイバシティについて一緒に考えてみたいと思います。

13:00~14:30

### コーパスに基づく語彙指導—何をどこまでどう教えるか

石川慎一郎

神戸大学教授 専門：応用言語学・コーパス言語学

プロフィール：主著に『英語コーパスと言語教育』、『言語研究のための統計入門』、『ベーシックコーパス言語学』、『ベーシック応用言語学』他。

講義内容：次期指導要領では、高校卒業段階までに学ぶ語彙が従来の3,000語から5,000語程度まで引き上げられる見込みで、語彙選定・語彙指導の重要性がさらに増すこととなります。本講義では、最新のコーパス言語学の知見をふまえた英語語彙指導のあり方について具体的にお話しします。

\* 14:50~17:10

### 英語コミュニケーション演習①(基礎): Encouraging creativity and originality to enhance fluency

Dave Murray

M.A., Applied Linguistics

プロフィール：Dave qualified and worked as a petrochemical engineer, before completing his M.A. in Applied Linguistics. He has been teaching and living in Japan for over 25 years.

講義内容：The theme for this lecture is that of encouraging creativity and originality and using these characteristics as a means to enhancing fluency and speaking proficiency skills in both traditional and technology-based language lessons.

\* 14:50~17:10

### 英語コミュニケーション演習②: Ideas for vocabulary building

Andrew Murakami-Smith

Associate Professor, Ph.D., East Asian Studies

プロフィール：Andrew teaches English, Translation Studies, and Modern Japanese Literature at Osaka University. He is interested in regional dialects and cultures of Japan, especially the dialect, culture, and image of Osaka, and has translated into English some 20 works of fiction, poetry, and essays relating to Osaka and the Kansai region. He has also worked as a translator in a lawyer's office and in a patent lawyer's office.

講義内容：Students can develop their own vocabulary using dictionaries. But are there ways teachers can help development of basic vocabulary at middle school, entrance-exam vocabulary at high school, or technical vocabulary at university? Please be ready to share your ideas.

\* 14:50~17:10

**英語コミュニケーション演習③: Utilizing visual art in the EFL classroom**

**Gwyn Helverson**

Specially Appointed Associate Professor, M.A., Advanced Japanese Studies

**プロフィール** : Gwyn is an American who has been living and teaching in Japan for more than 20 years. Her publications include studies of modern Japanese artists such as Yamaguchi Akira and Aida Makoto, and concerning the intersection of EFL- and gender-related issues. Her research on the artist Yanagi Miwa was awarded “Best Poster Presentation” at IGALA6 (The International Gender and Language Association Biennial Conference) and “Best of JALT.” Her latest publication analyzed the influences of the “different-but-equal” gender discourse on the EFL university classroom in Japan.

**講義内容** : In this session, attendees will participate in a variety of sample lessons utilizing visual art as the inspiration for communicative EFL classes. We will look at some thought-provoking artworks, and brainstorm ways in which these artworks can inspire and thereby increase student motivation. It is not necessary to be familiar with the artists or works before attending this session. We will discuss the imagery just as your students would.

Illustrations in EFL textbooks already provide support in controlled practice activities for grammar or functional language activities. Visual art, however, often has more impact upon students because of its drama and symbolism. Attempting to understand art also develops our visual literacy, a skill vital for navigation of today’s image-saturated environment.

\* 14:50~17:10

**英語コミュニケーション演習④: Language and Gender: A Workshop**

**Tamarah Cohen**

Specially Appointed Associate Professor,

M.A. in TESOL + Graduate Certificate in Teaching Post-Secondary Reading

**プロフィール** : Tamarah’s background is in the arts with a BFA in Film Studies from New York University. She has several years’ professional experience as a graphic artist (Paris, France), studio photographer (New York City), textile designer (New York City) and filmmaker. At San Francisco State University, she earned an M.A. and served as an ESL lecturer. At Osaka University, the challenge she sees before her is to refashion mandatory, skills-based English language classes for non-English majors into intellectually engaging, sought-after and positively memorable learning experiences. Her aim is to optimize students’ enjoyment in communicating across a wide range of issues by sensitizing them to interpersonal and cross-cultural empathy, so that they can successfully negotiate meaning with people unlike themselves.

**講義内容** : English, like most languages, partakes in the male-is-norm ideology. It therefore reflects and helps constitute sexual inequality. In response to this enduring problem, a growing number of language instructors have begun developing compensatory classroom strategies. This workshop will offer an overview, starting with isolated words and sentences, then moving toward more extended samples of language in use (i.e., from decontextualized items of what is commonly known as “sexist language,” to the role of discourse in the reproduction of sexism). It will conclude with practical teaching ideas and resource recommendations.

Feel free to bring the EFL textbooks that you are currently using. If time permits, we will engage in little bit of casual content analysis of our own.

8月9日 (水)

10:30~12:00

### 科学的な裏付けのある診断的リスニング指導法

上田真理砂

立命館大学教授 専門：リスニング（応用言語学・認知科学）

プロフィール：博士(言語文化学)。科学的根拠や理論を基に、効果的・診断的リスニング指導法を研究。近著学術書 Towards Effective Teaching Methods in EFL Listening for Intermediate Learners (溪水社)、国際誌 ELR Journal への論文掲載。

講義内容：リスニングにおいて「聞いただけではわからないが、読んだらわかる」という学習者は非常に多い。本講義では学習者の能力に応じた最適の効果的・診断的リスニング指導法を紹介。理論的裏付けや指導の為の具体的な実用的なノウハウを知りたい方やリスニング指導に自信がない方にお勧め。

\* 13:00~14:30

### ICTを活用した外国語学習—実践事例の紹介とワークショップ

岩居弘樹

全学教育推進機構教授 専門：ICTを活用した外国語学習・教育工学

プロフィール：2010年ごろからiPhone/iPadを活用したドイツ語学習を実践している。Apple Distinguished Educator 2013。

講義内容：音声認識アプリやビデオ撮影を中心としたドイツ語授業や多言語演習の実践をご紹介します。iPadを使った実習を通して、外国語学習ツールとしてのモバイルデバイスの可能性を体験していただきたいと思います。

\* 13:00~14:30

### 効果的な英語プレゼンテーション指導—実証研究に基づく評価基準

島村東世子

株式会社イー・グローブ代表取締役社長 専門：英語教育学(ESP)

プロフィール：博士(言語文化学)。ESP教育の指導法を研究。企業、研究機関にて指導・講演多数。著書『理系の英語プレゼンテーション(近刊)』(日刊工業新聞社)他。

講義内容：英語プレゼンテーションの授業において、何をどのように教えたら良いのか？本講義では、実証研究から得られた「英語プレゼンテーションの評価基準」と、その評価基準を基盤とした「効果的な英語プレゼンテーション指導法」を具体的にお話しします。

14:40~16:10

### 「国際英語」の学び—理論と授業実践

日野信行

言語文化教育論講座教授 専門：「国際英語」教育

プロフィール：International Association for World Englishes元理事。現在、国際学術誌World Englishes (Wiley) 編集顧問、国際学術叢書Intercultural Communication and Language Education (Springer) 編集委員等をつとめる。

講義内容：「国際英語」とは、国際コミュニケーションにおいて英語母語話者の規範や英米文化の枠組みに縛られずに自己表現を行うための英語である。本講義では、この分野の最新の知見を反映させながら、国際英語の学びの理論と授業実践について論じる。

8月10日 (木)

\* 10:30~12:00

**第二言語習得時における動機づけと情意—内容と言語を統合して**

**西田理恵子**

言語文化教育論講座准教授 専門：応用言語学

**プロフィール**：博士（外国語教育学）。第二言語習得時における学習者動機と情意要因を研究。著書にEmpirical studies of affective variables and motivational changes among Japanese elementary school EFL learners (金星堂)があり、国内外で多数の論文がある。

**講義内容**：第二言語習得時における動機づけと情意に関する理論的背景と実証研究を総括し、教育的介入による学習者の情意の変化について言及する。教育的介入には、プロジェクト型学習を概観し、内容と言語を統合した授業実践（地球博とグループプレゼンテーション）の在り方について考察する。

\* 10:30~12:00

**ネット上のフリー教材を活用する—発音からTEDトーク、発信型活動まで**

**小口一郎**

言語文化教育論講座教授 専門：イギリス・ロマン主義、英語教育

(アシスタント) **メラサ・アリザデ、パリサ・メラン**

大阪大学大学院情報科学研究科博士後期課程 専門：英語教育、eラーニング

**プロフィール**：ロマン主義とエコロジーの観点からイギリス文化を研究。アカデミックライティングやオンライン教育など、英語教育論にも取り組んでいます。

**講義内容**：今、ネット上には英語学習のための多くの無料教材があり、中にはとても優れたものも見受けられます。この講義では、発音やリスニング、アクティビティなどに使える教材を、大学での授業実践を交えて紹介し、気軽に効果的なネット活用のあり方を考えます。

\* 13:00~14:30

**生徒の英語能力を適切に評価するために知っておきたいこと**

**今尾康裕**

言語文化教育論講座准教授 専門：応用言語学（言語テスト）

**プロフィール**：学習者コーパスからの知見をライティング評価に生かす方法を研究。Mac用のコーパス分析ツール、文字起こしツール等を開発。

**講義内容**：学習者の英語能力を評価するためには、評価する目的に合わせて、どの要素をどのように評価するのかを決める必要がある。そのために必要な言語能力評価の基本的な概念やテスト作成の際に考慮すべき点などを中心に概説する。

\* 13:00~14:30

**会話分析による英語教育へのアプローチ**

**岡田悠佑**

言語文化教育論講座准教授 専門：会話分析・応用言語学・第二言語語用論

**プロフィール**：博士（学術）。共著に「英語教育徹底リフレッシュ」（開拓社）、Assessing second language pragmatics (Palgrave-Macmillan)など。他に、Journal of Pragmaticsなど国際誌での論文掲載多数。

**講義内容**：本講義の狙いは、第二言語英語話者が利害を適切にやり繰りできるようになるために必要な英語教育を具体例から議論することである。そのために、採用面接や米公聴会といった第二言語英語話者が参加した利害の大きな相互行為場面を会話分析の視座から分析し考察を行う。

\* 「ディスカッション」は、受講者の方たちの中で、英語教育に関する情報共有・意見交換・交流をしていただける場として企画しております。

\* 14:50～16:40

### ディスカッション①：小・中・高の英語教育の接続

進行:

全学教育推進機構教授 **森祐司**

姫路獨協大学講師 **山岡華菜子**

**内容**：小学校での「教科化」も決まり、学力差や運用能力のちがいへの対応など英語教育の接続の問題は重要な課題となっていると思います。小・中・高で教鞭をとる先生方が集まるこの講座は意見交換を行う絶好の場ではないかと考えこのテーマを取り上げました。

\* 14:50～16:40

### ディスカッション②：教室のなかの多文化共生

進行:

現代超域文化論講座教授 **ジェリー・ヨコタ**

言語情報科学講座准教授 **三宅真紀**

**内容**：文化的背景が異なる生徒が自由に意見交換してお互いの立場を理解し合うようなクラス環境を作るために何が必要か。参加者の経験を共有しながら、英語の授業において多文化共生についての内容を取り上げる意義・実践・可能性について一緒に考えましょう。

\* 14:50～16:40

### ディスカッション③：アクティブ・ラーニングの可能性

進行:

言語認知科学講座講師 **小薬哲哉**

言語情報科学講座講師 **ホドシチェク・ボル**

**内容**：このセッションでは、生徒の主体的な授業参加をテーマに、参加者が日々の授業で感じている課題や取り入れている工夫などを共有し、能動的学修を促すためのヒントを探りたいと思います。肩の力を抜いて、座談会のような気持ちで意見交換を行えば幸いです。